

首都大学東京	建築文化論	科目種別	技・自I/A	単位数	2	指定科目 クラス指定科目
東京都立大学 ※	建築と文化	科目種別	教養科目	単位数	2	指定科目 クラス指定科目
担当教員	鳥海基樹・北山和宏・小林克弘	後期	月曜日	1時限		
①授業方針・テーマ	人が創り出すひとつの文化的な所産としての建築、さらにその集合体である都市について講述する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	古来より、人間の叡知は「文明」と呼ばれる数々の技術的・物質的な所産を産み出してきたが、その一部をなすものが「建築」であり「都市」であるという視点に立ち、それらを歴史や芸術のなかで見るだけでなく、近代以降の技術革新や工学的な手法のなかで、さらには現代から将来への新しい生活を支える「道具」や「装置」として眺めるなど、できるだけ多方面から理解を深めることをめざす。					
③授業計画・内容	<p>第1回 (10月7日) ガイダンス+自動車中心の都市計画から反walking poorの街づくりへ①</p> <p>第2回 (10月14日) 自動車中心の都市計画から反walking poorの街づくりへ②</p> <p>第3回 (10月21日) 自動車中心の都市計画から反walking poorの街づくりへ③</p> <p>第4回 (10月28日) フランスの都市デザインの最前線①</p> <p>第5回 (11月11日) フランスの都市デザインの最前線②</p> <p>第6回 (11月18日) 耐震構造を考える1 なぜ耐震構造を考えるのか? ~地震被害からの教訓~</p> <p>第7回 (11月25日) 耐震構造を考える2 耐震構造ってどうやるの? ~鉄筋コンクリート構造の場合~</p> <p>第8回 (12月2日) 耐震構造を考える3 耐震構造はどう発展したのか? ~耐震構造・温故知新~</p> <p>第9回 (12月9日) 耐震構造を考える4 これからの耐震構造はどうあるべきか? ~三位一体で考える~</p> <p>第10回 (12月16日) 西洋建築の伝統—古代・中世</p> <p>第11回 (12月23日) 西洋建築の伝統—近世</p> <p>第12回 (1月6日) 近現代建築のデザイン</p> <p>第13回 (1月20日) ニューヨークの都市と建築</p> <p>第14回 (1月27日) 近年の建築ストック活用—コンバージョン、授業評価</p> <p>第15回 (2月3日) まとめ</p> <p>第1回から5回は、自動車が席捲する今日の都市空間が抱える問題を、フランスの都市計画を視座としながら考えてゆく。</p> <p>第6回から9回は、地震などの自然災害を教訓として発展し、今日、建築および都市の安全性の基本となっている建築構造について、その原理と歴史、および耐震設計について解説する。</p> <p>第10回から14回は、近代の日本の建築のあり方に大きな影響を与えた西洋建築の伝統および近現代建築のデザインを概説し、最後にニューヨークの都市と建築、近年の世界各地における建築ストック活用の状況について解説する。</p> <p>原則的に、毎回プリントを配付する。</p>					
④テキスト・参考書等	参考書：フランスの開発型都市デザイン (彰国社) 世界のコンバージョン建築 (鹿島出版会)					
⑤成績評価方法	授業時に取り組む課題・レポートにより評価する (60%)。出席調査を成績評価に加算する (40%)。詳細は授業中に指示する。					
⑥特記事項	本講義は建築都市コース (首都大学東京)、建築学科 (東京都立大学) の学生は履修できない。					

※東京都立大学からの転籍者のための科目を指す。